


2 野 菜

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 果菜類の管理</p>	<p>(今月の作業のポイント) 果菜類の管理 台風対策 イチゴの育苗管理 ナスの更新剪定</p> <p>ア ハウスの高温対策 夏場の雨よけハウスでは、ハウス内の温度が40℃を超えることがあり、株の消耗や花質劣化による着果不良の原因となる。このため、ハウスの側面や妻面などをできるだけ大きく開放し、換気をよくするとともに、古葉や混み合った葉は適宜除去し、通風の向上に努める。</p>  <p>写真1 キュウリの摘葉</p> <p>キュウリ、ナス、ピーマンなどの露地果菜類では、株元に稲ワラや刈草を厚く敷き、地温の上昇や土の乾燥から根を保護する。</p> <p>イ かん水・追肥・摘果 天候や土壌水分の状況を見ながら、少量多回数のかん水を基本とする。かん水は日中を避け、気温の低い夕方に行う。 追肥は、草勢を見ながら、肥料を切らさないように行う。 目安としては、窒素成分で2～3kg/10aを7～10日おきに施用する。粒状肥料の場合、土壌が乾燥していると肥効が現れにくいいため、施用後にかん水を行う。 また、着果負担、高温、乾燥等により草勢の低下がみられる場合は、果実の若どりや不良果を中心とした摘果を行い、草勢の回復に努める。</p> <p>ウ 摘葉(葉かぎ) トマトでは、不要になった下葉や、病葉、過繁茂の部分などを適宜除去する。なお、傷口からの病気の侵入を防ぐため、葉かぎは晴天日の午前中に行い、夕方までに傷口を乾燥させる。</p>

項 目	作 業 内 容
(2) 台風対策	<p>キュウリでは、古葉や混み合った部分の葉を除去する（写真1）。葉かぎの目安は、葉の間から光がちらちら見える程度とする。</p> <p>エ 病害虫 晴天が続くと、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類等の発生が多くなるため、早期防除に努める。また、果実を加害するオオタバコガやハスモンヨトウのほか、マメハモグリバエなども8～9月にかけて発生が多くなるため、圃場をよく観察して防除を徹底する。</p> <p>オ 生理障害 土壌が乾燥すると養水分吸収が抑制される。特にカルシウムが欠乏すると、トマトやピーマン等では尻腐れ果が発生しやすくなる。このため、かん水管理に注意するとともに、定期的にカルシウム剤の葉面散布を行う。</p> <p>今後の台風襲来に備えて、この時期は特に草勢維持に努める。また、事前対策として施設の補強、防風網の設置、排水溝の整備を行い、事後対策としては、疫病・炭疽病・軟腐病等水媒性病害の薬剤散布、液肥等のかん注または葉面散布、摘果等を実施し、早期の草勢回復を図る。</p>
(3)イチゴの育苗管理	<p>育苗中期～後期は、施肥やかん水・葉かぎなど、基本管理の徹底により苗の充実を図るとともに、後半は窒素肥料を切って植物体窒素濃度を低下させ、花芽分化への誘導を図る。また、引き続き炭疽病を中心とした病害虫防除に努め、健苗を養成する。</p> <p>ア かん水 天候と培養土の乾き具合をみて、夕方に苗が萎れない程度にかん水する。</p> <p>イ 窒素肥料の中断 イチゴは低温・短日条件で花芽分化するが、苗の体内窒素濃度を低下させることで感受性が高まるとされ、花芽分化しやすくなる。 窒素肥料を切る時期は作型によって異なり、無冷促成のポット育苗では8月中～下旬頃が目安となるが、ポットの大きさや育苗方法、品種等によっても異なるため、これらの条件</p>

項 目	作 業 内 容
(4) ナスの更新 剪定	<p>に合わせて時期をずらす。 なお、「紅ほっぺ」などの品種では、育苗終盤に極端に肥料切れすると、本圃で芯止まり株の発生が多くなるという報告があるため、適切な肥培管理を行う。</p> <p>ウ 小型ポットの根詰まり対策 小型ポット育苗では、育苗後半、ポット内に根が充満すると排水不良となり、根腐れが見られることがある(写真2)。この場合は、一度ポットから苗を引き抜き、挿し直すと排水が良くなる。</p> <p>エ 病虫害防除 炭疽病、うどんこ病、ハダニ類などは、夜冷や株冷施設の入庫または定植までに防除を徹底し、本圃に持ち込まないように注意する。</p> <p>4～5月に定植したナスは、8月になると高温や着果負担による草勢の低下や、病虫害の発生等により果実の肥大や品質が低下する。生育を回復させ、果実品質の向上を図るためには、更新剪定が有効である。</p> <p>更新剪定では、3～4本伸びている主枝を、元から2～3芽残して切り戻す。主枝を全て更新剪定すると一定期間収穫がなくなるので、V字に誘引している主枝の片側のみ(東西うねは南側、南北うねは東側)剪定すると、収穫を続けながら更新できる。新梢の発生を促すため、剪定後は、速効性の肥料を10a当たり窒素成分で4～5kg施用する。</p> <p>このようにすると、剪定後20～30日目頃から品質の良い果実が成り始め、10月末頃まで収穫できる。</p> <p>剪定の時期が遅れると芽の伸長が悪くなるので、遅くとも8月中旬までには終えるようにする。</p>



写真2 ポット底面に根が詰まった状態